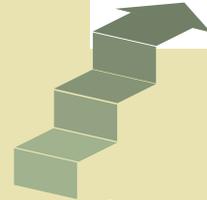


# 街道と語り合う歴史のひととき

徳川幕府の国防の要衝



## 中山道

なかせんどう  
—交通の要衝として栄えた高崎— ①

古くから交通の要衝として栄えた高崎には、中山道、日光例幣使街道、三国街道、鎌倉街道、追分街道などの道筋が今も残っている。碓氷峠を越えてきた旅人は、高崎のにぎわいに驚き、江戸に着いたかと思えばかりだったそうだ。

### ●関東の要・高崎と中山道

戦国時代、信州、越後と関東の勢力がぶつかる最前線が西上州で、江戸に入府した徳川家康は、四天王の一人、徳川最強軍団と言われた井伊直政を軍事拠点の箕輪城に置き、国防の要衝を安定させた。直政は、信州、越後へと街道が通じる要衝の地・和田に城を移し、慶長3年（1598）に「高崎」

が誕生した。

中山道は、東海道、日光街道、奥州街道、甲州街道とともに家康によって整備された幕府直轄の街道で、直政が箕輪から高崎に城を移して江戸へのルートを整えたことは家康の国家構想においても大きな意味を持っている。

### ●歴史を伝える商家が沿道に

高崎城下に最初に作られた中山道は、現在、中山道と呼ばれている大通りの東側の道だった。赤坂から本町三丁目を東にまっすぐ行き、椿町で右折して通町を南に行き、砂賀町で左折して東に向かい、中居から下之城を経て、倉賀野に出た。

最初の中山道は、武家長屋や寺を抜けていた。永禄6年（1566）創業で四百五十年に及ぶ老舗、糶屋（元糶屋町）がある南北の通りで、道路も拡幅されず往時の雰囲気味わえる。糶屋の前の金沢米穀店も三百年以上前に倉賀野河岸で創業、格子造りの店が雰囲気漂わせている。九蔵町付近になると、井伊直政に京から招かれて高崎に移った染職人「だるま紺屋」などの商家や、このあたりに一里塚があったとされている。

直政が彦根に移った後、高崎城主になった酒井家次は、本町三丁目を右折し、九蔵町から田町、連雀町を通る、現在の街道を整え

た。この新しい中山道の沿道には商家が並ぶようになり、高崎の原型となるまちなみが生まれた。

### ●古代のメインルートが通っていた高崎

高崎の街道史をひもとくと、源流は遠く古代までさかのぼる。朝廷の置かれていた畿内から奥州を結ぶ東山道は、高崎あたりまでは中山道と同じルートで、上野国を横断し、下野国を経て陸奥国へと日本の中央を貫いていた。鎌倉時代以前は、都と東日本を結ぶメインルートで、ヤマトタケルも東山道ルートで東北征伐に行っている。朝廷と地方の国府を結ぶ壮大な道路網が作られ、古墳群や豪族居館跡、多胡碑などが、古くから都と盛んに交流していたことを裏付けている。



◀最初の中山道  
往時の雰囲気を今に伝える（元糶屋町）

